

仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会「まちのレジリエンス分科会」を開催しました（2025/10/1）

テーマ：スマートシティ・防災 DX・産官学連携

会 場：災害科学国際研究所

URL：<https://www.city.sendai.jp/project/supercity/sendaisupercity.html>

2025 年 10 月 1 日（水）、本学の富永悌二総長が参与として、また青木孝文副学長・理事がリードアーキテクトを務めている「仙台市×東北大学スマートフロンティア協議会」の令和 7 年度第 4 回「まちのレジリエンス分科会」が、当研究所を会場として開催されました。この協議会は、参画する民間事業者、仙台市、そして本学が連携し、先進サービスや規制緩和によってスマートシティを推進する取り組みです。その中で本分科会は、防災をメインテーマに据えてレジリエンスの強化に向けた具体的なサービスの提案と事業創出を目指しています。

会合の前半では、当研究所の永田彰平助教（災害レジリエンス共創センター）が「災害は人流をどう変えるのか？ 一人流データで読み解く実態と展望」と題して講演しました。永田助教は、携帯電話の位置情報などから得られる人流ビッグデータを活用することで、これまで定量的な把握が難しかった災害時の避難行動の実態が明らかになりつつある研究成果を解説しました。特に、指定避難所だけでなく知人宅など多様な場所へ避難する傾向をデータで示し、実効性の高い防災計画を策定する上での科学的根拠の重要性を強調しました。この講演は他分科会の参加者にもオンラインで配信され、データ利活用の観点から高い関心を集めました。

後半は、参加企業各社から自社の取り組みや今後の事業構想が紹介され、活発な意見交換が行われました。交通、インフラ、情報通信、福祉など各社の専門分野から、災害時の課題解決に向けた具体的な連携案や、「フェーズフリー」の視点を取り入れた持続可能なビジネスモデルについて議論が深められました。

なお、本分科会は当研究所の鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が事務局の一員として運営に参画しています。当研究所は、今後も本協議会のような産学官連携のプラットフォームを通じて研究知見を社会に還元し、仙台市のレジリエンス強化に貢献してまいります。



話題提供する永田助教と参加者

文責：鎌田健一（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）